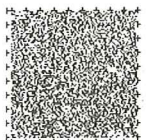


第2章

地域福祉の現状と課題



1. 地域福祉に関するアンケート調査から

平成18年2月に合併前の久喜市が行った「地域福祉総合計画策定のためのアンケート調査」と今回の「地域福祉に関するアンケート調査」を比較すると「近所づきあいの程度」については、「あいさつや立ち話ができる」状況が、全体で69%から61.6%に減少し、この5年間でますます人々のつながりの希薄化が進む傾向が現れています。

しかしながら、居住地区によって「困っているとき、相談や助け合いができるような付き合い」や「簡単な頼みごと程度ならできる」状況も高い割合を示していることから、地域によっては従来からの地域の絆が強く残っていることや、人々のつながりの希薄化の進行を遅らせる仕組みづくりや工夫がなされていることもうかがい知ることができます。

また、地域福祉に対する考え方については、「行政と地域住民（住民組織）すべてが協力しあいながら行うものであると思う」が、全体で74.7%となっており、いずれの居住地区、各年代でも高い割合を示しています。

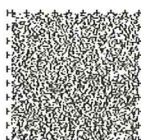
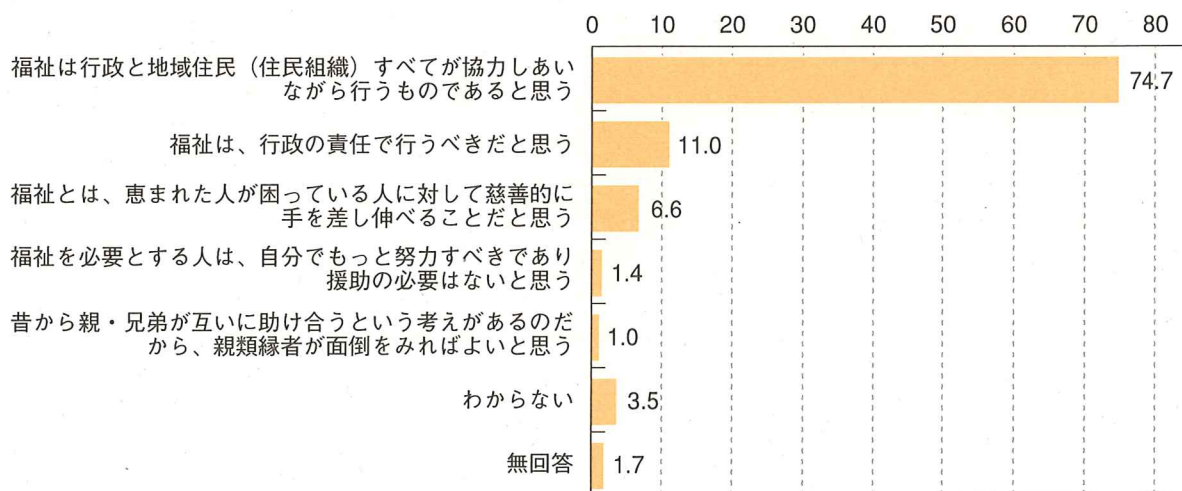
これらのことから、地域福祉の推進にあたっては、地域の特性や状況を踏まえながら、公私協働による取り組みが求められています。

■地域福祉に対する考え方

(問3 1つ選択)

(n: 1051)

(%)



■地域福祉に対する考え方（地区別・年齢別）

（単位：人、％）

		n	福祉とは、恵まれた人が困っている人に対して慈善的に手を差し伸べることだと思う	福祉を必要とする人は、自分でもっと努力すべきであり、援助の必要はないと思う	福祉は、行政の責任で行うべきだと思う	昔から、親・兄弟が互いに助け合うという考えがあるのだから、親類縁者が面倒をみればよいと思う	福祉は、行政と地域住民（住民組織）すべてが協力しあいながら行うものであると思う	わからない
全 体		1,051	6.6	1.4	11.0	1.0	74.7	3.5
居住地区	本町地区	112	7.1	1.8	9.8	0.9	75.9	1.8
	中央・南地区	49	4.1	2.0	12.2	4.1	75.5	2.0
	東地区	58	8.6	—	▼ 5.2	—	79.3	3.4
	太田地区	114	7.9	2.6	14.0	0.9	71.1	1.8
	江面地区	33	6.1	—	△ 21.2	—	▼ 69.7	3.0
	清久地区	22	△ 18.2	—	▼ 4.5	—	72.7	4.5
	菖蒲・三箇地区	88	5.7	1.1	9.1	2.3	76.1	4.5
	小林・栢間地区	31	△ 12.9	—	▼ 3.2	—	77.4	6.5
	栗橋・伊坂地区	113	7.1	0.9	15.0	0.9	74.3	1.8
	静・豊田地区	69	4.3	2.9	▼ 5.8	1.4	76.8	7.2
	鷺宮地区	111	4.5	0.9	13.5	0.9	73.9	4.5
	桜田地区	126	3.2	0.8	12.7	—	77.8	2.4
年 齢	20歳代	101	4.0	—	△ 16.8	—	75.2	1.0
	30歳代	132	5.3	1.5	11.4	0.8	75.0	2.3
	40歳代	151	6.6	0.7	9.9	0.7	78.8	1.3
	50歳代	158	2.5	0.6	7.6	—	△ 82.9	3.2
	60歳代	198	6.6	1.0	13.6	2.5	73.2	—
	70歳以上	193	△ 12.4	3.1	10.4	1.0	▼ 67.9	2.1

◎地域福祉に関するアンケート調査

・調査目的 市民がお互いに助け合い、支え合い、誰もが住みやすい地域社会を目指して「地域福祉」を進めていくための計画づくりの基礎資料を得ることを目的に、久喜市と久喜市社会福祉協議会が協働して実施。

・調査実施 平成23年2月1日～2月14日

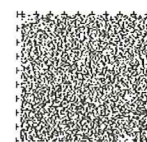
・対象者 20歳以上の市民（無作為抽出）有効回答者数1,051 有効回収率52.6%

※図表中の記号

（全体値より ☆15%以上高い ★-15%以上低い △5～14.9%高い ▼5～14.9%低い）

※グラフの（n：0000）は、その問の有効回答者数。以降のグラフも同様

*アンケート調査の全文は、久喜市のホームページに掲載しています。



(1) 地域福祉活動への住民の参加促進に関する課題

- 地域の生活課題に対して住民が相互に協力するために必要なことについては、「自治会、町内会が中心となって、市民相互の交流を進める」「行政が地域活動の相談や情報提供など、支援体制を充実する」「地域の人が気軽に集まれる場所をつくる」の順に多くなっています。

地域に住む人々のつながりが希薄化するなか、多くの方が自治会、町内会を通じて住民同士の交流の大切さを感じていることがうかがえるとともに、地域における住民の相互扶助（助け合い、支え合い）を活性化するため行政の支援が求められています。

- ボランティアやNPO活動の参加経験については、この5年間で「参加している」と「以前に参加したことがある」を合わせると、5.8ポイントの上昇を見せるものの、全体で26.9%と、未だ、少ないのが現状です。

- 今後、地域福祉推進のためには、多くのボランティアの育成が必要になっていきます。ボランティアやNPO活動を活発にするためには、「体験活動など、初めての人も参加しやすいようなきっかけづくりを行う」や「活動の内容などの情報を住民に提供する」が多くの回答を集めていることから、気軽にボランティアに参加できる仕組みをつくることも急務であります。

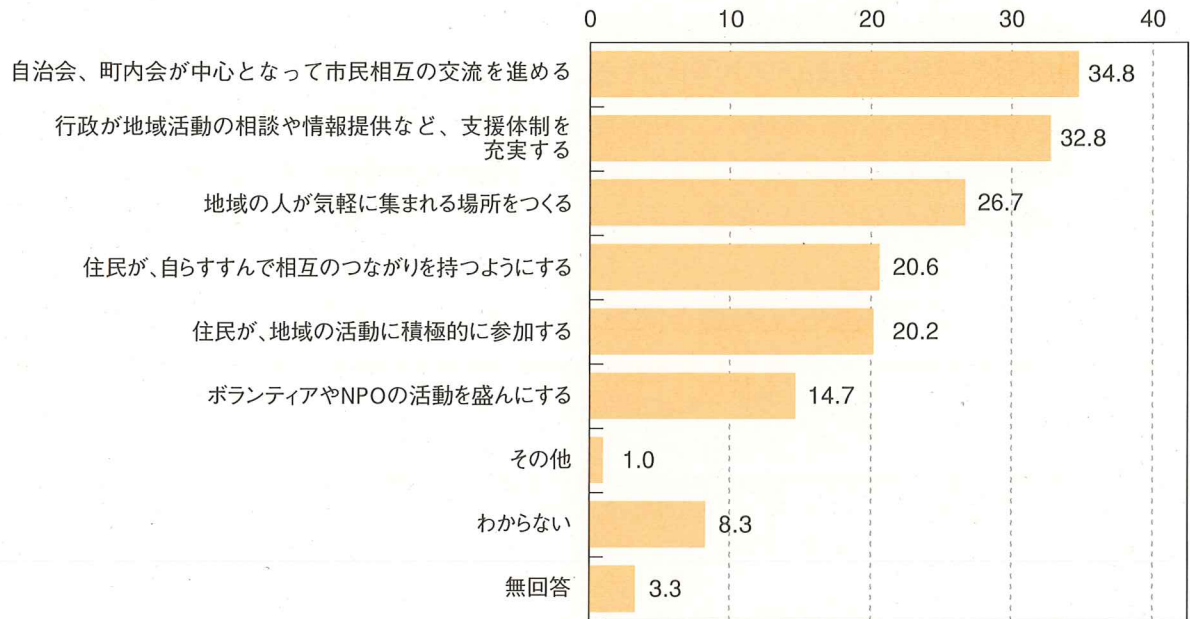
- また、福祉意識の醸成のための福祉教育の推進や、地域福祉についての広報・啓発、隣近所・異世代間・団体間の交流を深めるような取り組みが重要となります。

- さらに、様々な地域福祉の担い手がより効果的に連携できる仕組みづくりなどを進め、地域福祉活動の担い手となる多様な人材の育成や地域コミュニティ※活動、ボランティア活動の活性化を図り、地域の福祉力を高める取り組みが求められています。



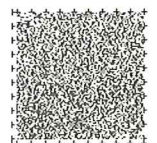
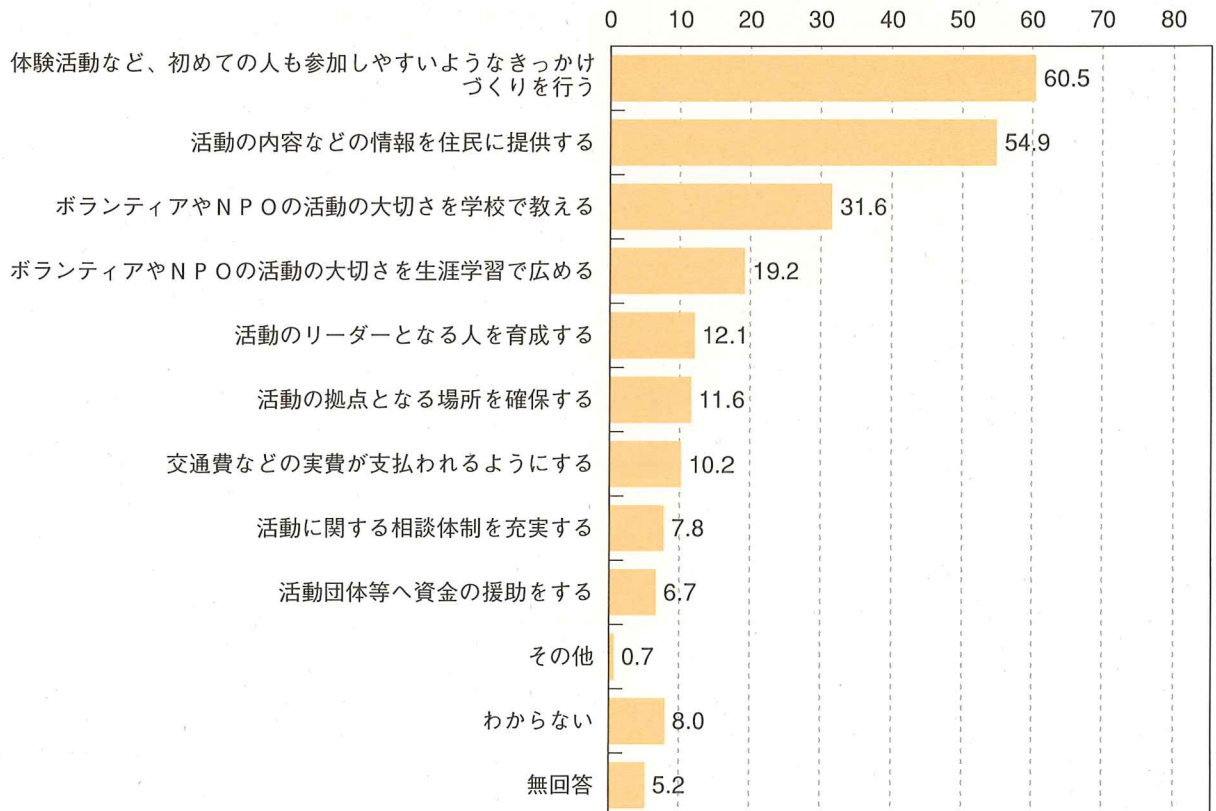
■地域の生活課題に対して住民が協力するために必要なこと (問10 2つ選択)

(n: 1051)



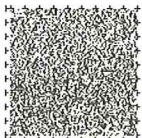
■ボランティアやNPO活動を活発にするために必要なこと (問16 3つまで選択)

(n: 1051)



(2) 住み慣れた地域で安心していきいきと暮らしていける環境 づくりのための課題

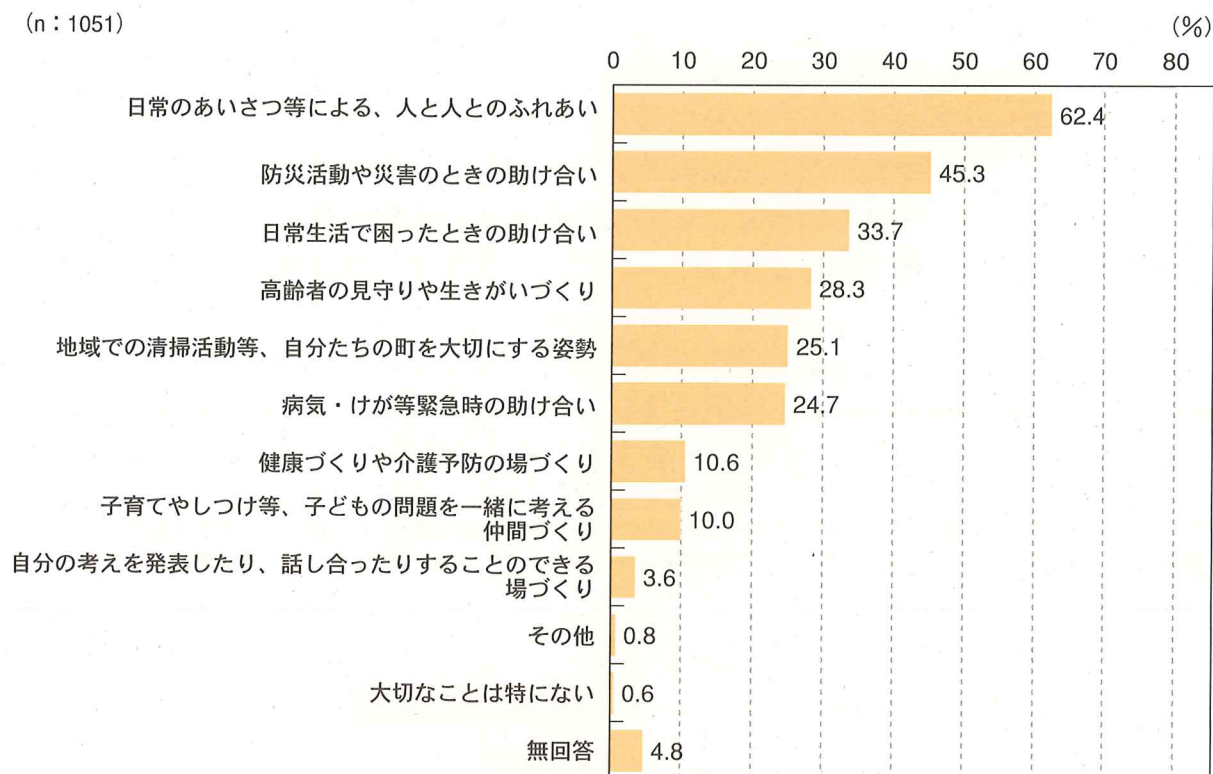
- これからの近所づきあいで大切になることとして、「日常のあいさつ等による、人と人のふれあい」62.4%、「防災活動や災害の時の助け合い」45.3%「日常生活で困ったときの助け合い」33.7%、「高齢者の見守りや生きがいづくり」28.3%の順に多くなっています。
- また、住んでいる地域で問題と感じていることとして、「住民同士の交流や理解の不足」28.6%、「災害など非常時での協力体制」25.4%、「ごみや騒音、違法駐車などモラルの問題」22.1%の順に多くなっています。
- これらの結果から、住みなれた地域で暮らし続けるためには、多くの方がご近所同士の程よい関係性を築き、万一災害に見舞われた時には、助け合うことの必要性を感じていることがうかがえます。
- また、アンケートの自由意見でも、高齢者については、見守りも必要であるが、高齢者が地域で何らかの役割があり、生きがいを持てるような活動が必要と感じている方も多く、地域の福祉力アップへの期待がうかがえます。



■これから近所付き合いで大切なこと

(問6 3つまで選択)

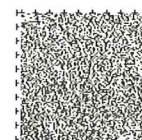
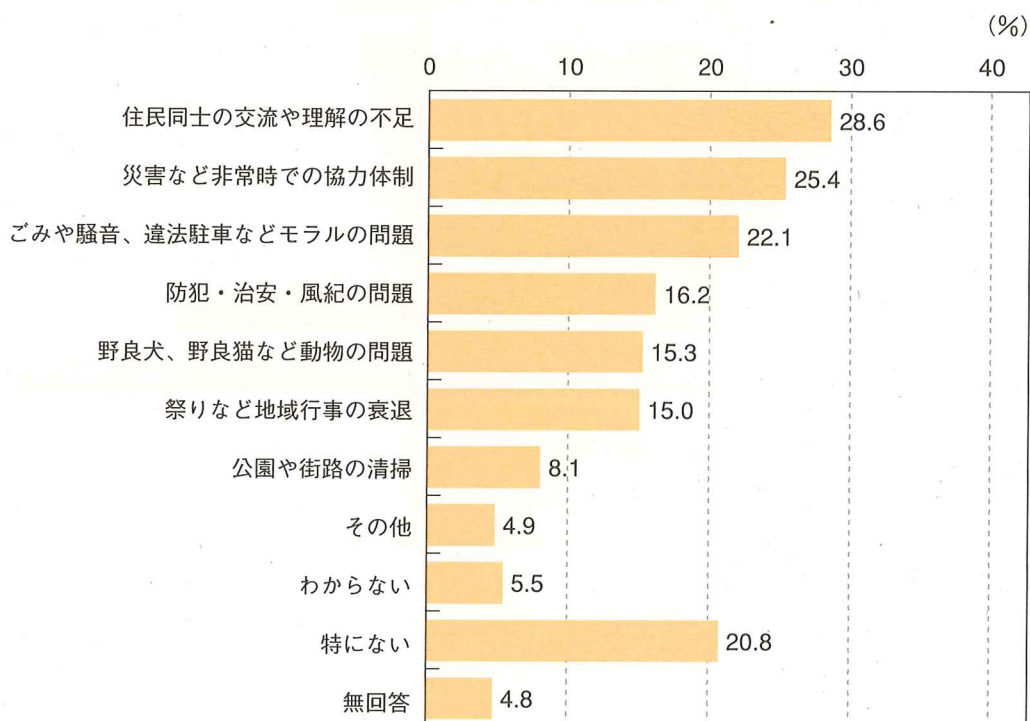
(n: 1051)



■住んでいる地域で問題と感じていること

(問9 あてはまるものすべて選択)

(n: 1051)



(3) 福祉サービスの利用に関する課題

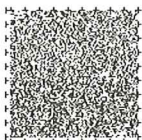
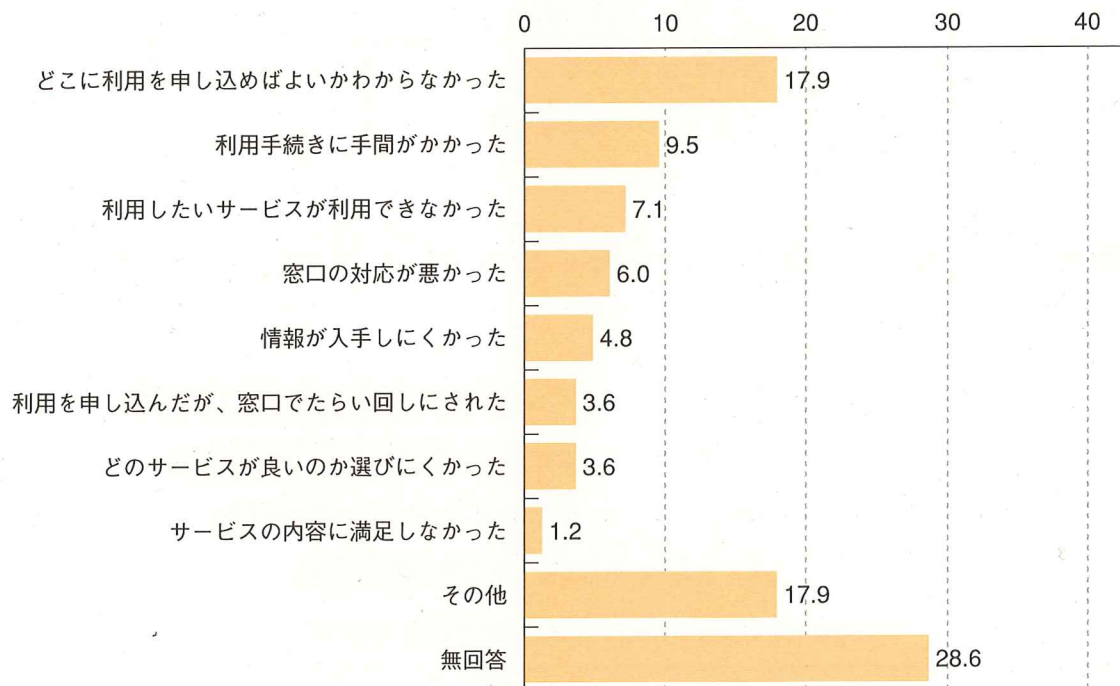
- 福祉サービスの利用に関して、不都合・不満を感じている理由として、「どこに利用を申し込めばよいかわからなかった」「利用手続きに手間がかかった」など手続き上の問題が約35%、窓口の対応等が約10%、そのほか「情報が入手しにくい」が4.8%となっています。この結果から、支援を必要としている方に適切な情報やサービスを提供できるように、相談支援体制や情報提供の充実が一層求められています。
- 安心して福祉サービスを利用できるようにするために、利用者の権利擁護に取り組む、福祉サービスに係る苦情処理制度・利用援助事業や成年後見制度*の活用などを図りつつ、“あんしん生活”を支援していく必要があります。

■福祉サービスの利用について、不都合・不満を感じた理由

(問22 1つ選択)

(n: 84)

(%)



2. 地域福祉推進のためのワークショップでは

「自助＝共助＝公助」というキーワードで展開した、おおむね小学校区、市内21か所でのワークショップでは、現在の地域福祉の現状と課題についてのお話し、お集まりの皆さんでお住まいの地域の課題を出し合いました。

その後、自分でできること（自助）、地域のみんなで取り組むこと（共助）、公的機関に期待すること（公助）を話し合いました。

このなかで地域福祉活動の中心は、やはり「行政区」「自治会」が基本の単位で、ここでは様々な生活のニーズが明らかにされました。

さらに、コミュニティ協議会が活発な地域では、防犯・防災などの共通課題を通じて組織の強化がされていたり、一方では、比較的新しい住民が多い地域では、子ども会活動や自治会が中心となって地域全体の取組みに発展させ、三世代交流の輪が広がっていたりする地域もあります。

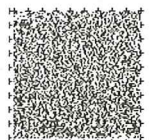
しかし、最近、老人クラブや子ども会の活動も衰退している地域も多く、地域での集いがなく、孤立した住民の実情も明らかになりました。

また、個別的な課題として、認知症の方が増えた、閉じこもって外出しない方がいる、災害時要援護者*がどこにいるのかわからないなど、課題を抱える人たちへの対応や不安も多く出されています。

特に、地域によっては、買い物難民やそれらの方への移動手手段の確保が必要との声も出ています。

区長会、自治会をはじめ、民生委員・児童委員*、防犯ボランティア、通学支援ボランティアなど今ある活動を大切にして、「声をかけることができる地域」を目標に、地域で暮らすという意識を高めるだけでも、つながりは強くなると思います。

そのためにも、地域活動拠点の整備充実と活動の支援については、公助としての課題でもあります。

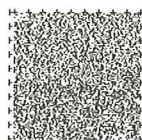


「地域福祉推進のためのワークショップ」実施結果

実施期間	平成23年5月25日～6月28日
実施地域	21か所（主に小学校区）
対象者	地域福祉推進をしている関係者及び推進者として期待できる方 （区長、民生委員・児童委員、ボランティア、社協事業の協力者等）
内容	各地域の福祉課題を出し合い、自分たちでできること（自助）、地域住民が助け合ってできること（共助）、行政や社協、事業所がやるべきこと・期待すること（公助）について、ワークショップ形式で実施。
実施結果	市民参加人数422人 職員参加人数（社協：延べ100人 市：延べ36人）

【久喜地区】

日付	曜	時間	実施地域 (小学校区)	実施場所	参加 人数	職員参加 人数
6/3	金	14:00～16:00	江面第一小	江面農村センター	10人	社協：4人 市：2人
6/16	木	9:30～11:30	江面第二小	樋ノ口集会所	10人	社協：4人 市：1人
6/16	木	14:00～16:00	青毛小	ふれあいセンター久喜	15人	社協：5人 市：2人
6/17	金	9:30～11:30	久喜東小	東公民館	24人	社協：5人 市：1人
6/20	月	9:30～11:30	久喜北小	久喜北小	12人	社協：5人 市：2人
6/20	月	14:00～16:00	太田小	ふれあいセンター久喜	22人	社協：4人 市：2人
6/23	木	10:00～12:00	本町小	愛宕(あたご)会館	20人	社協：4人 市：2人
6/23	木	14:00～16:00	久喜小	中央公民館	24人	社協：4人 市：2人
6/28	火	10:00～12:00	清久小	清久コミュニティー センター	10人	社協：4人 市：2人
6/28	火	14:00～16:00	青葉小	ふれあいセンター久喜	15人	社協：4人 市：2人
市民参加人数：162人 職員参加延べ人数（社協：43人 市：18人）						



【菖蒲地区】

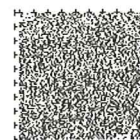
日付	曜	時間	実施地域 (小学校区)	実施場所	参加 人数	職員参加 人数
5/25	水	10:00~12:00	小林小 栢間小	森下公民館	32人	社協:5人 市:1人
6/6	月	10:00~12:00	菖蒲小 菖蒲東小	菖蒲文化会館 (アミーゴ)	32人	社協:6人 市:1人
6/9	木	10:00~12:00	三箇小	菖蒲文化会館 (アミーゴ)	17人	社協:5人 市:1人
市民参加人数:81人 職員参加延べ人数(社協:16人 市:3人)						

【栗橋地区】

日付	曜	時間	実施地域 (小学校区)	実施場所	参加 人数	職員参加 人数
6/8	水	14:00~16:00	栗橋西小	栗橋西小	18人	社協:5人 市:3人
6/13	月	14:00~16:00	栗橋小	栗橋公民館	54人	社協:6人 市:2人
6/17	金	14:00~16:00	栗橋南小	栗橋コミュニティー センター(くぶる)	26人	社協:6人 市:1人
市民参加人数:98人 職員参加延べ人数(社協:17人 市:6人)						

【鷺宮地区】

日付	曜	時間	実施地域 (小学校区)	実施場所	参加 人数	職員参加 人数
6/3	金	10:00~12:00	上内小	団地集会所	22人	社協:4人 市:2人
6/5	日	10:00~12:00	鷺宮小	ハイツ集会所	9人	社協:6人 市:2人
6/11	土	9:00~11:00	桜田小	東コミュニティー センターさくら	22人	社協:6人 市:1人
6/12	日	10:00~12:00	砂原小	角栄集会所	11人	社協:4人 市:2人
6/19	日	9:30~11:30	東鷺宮小	東コミュニティー センターさくら	17人	社協:4人 市:2人
市民参加人数:81人 職員参加延べ人数:(社協:24人 市:9人)						



3. 課題のまとめ、求められているもの

第1に、

みんなで助け合う地域になるためには、支え合いの意識を高めるための啓発やボランティアに参加しやすい仕組みづくりが大切です。

また、ひとり暮らしの方をはじめ孤独解消などのために高齢者の生きがいづくりも地域づくりには欠かせないことの一つです。そうすることによって人とふれあうきっかけができ、交流が生まれます。そのためには、どなたにも取り組めるボランティア活動やボランティア体験を通じて、地域の一員として地域活動に積極的に参加する意識の醸成も求められます。

第2に、

地域福祉の推進のためには、小地域で活動する組織づくりや見守り体制を築き、万一災害が発生した時に備え、日頃から顔の見える関係づくりをしていくことが大切となってきます。そのなかで、地域では災害に備えた対策を構築するとともに、市や社会福祉協議会と連携し、役割分担をすることが求められています。また、外出を促進できるバリアフリーのまちづくりを推進することも課題の一つです。

第3に、

ワークショップでは、ほしい情報が届かない、防災無線の聞こえにくさ、パソコンから情報が取れない、広報紙の文字が細かすぎて読みにくいなどが議論された地域がありました。必要な人に必要な情報が届くための工夫が求められており、わかりやすさや利用しやすさも情報提供する際に配慮すべきポイントとなっています。

第4に、

地域福祉推進組織の構築ができた時には、地域では解決できない生活課題を専門職につなぐことも必要です。地域で把握されたニーズについて、専門的に対応できる相談体制を築くとともに、気軽に相談でき、信頼できる相談体制を整備することも大切です。また、利用者の権利を擁護し、専門性の高い相談機関との連携、協働が求められます。

